

主催：中富良野町  
企画・運営協力：株式会社良品計画

# 「北星山森林公園 つながる森づくりワークショップ」

Vol.1  
瓦版



第一回  
**8月28日(木)**  
開催場所：  
昼の部\_ なかふらのフラワーパーク  
夜の部\_ 中富良野町町役場

## ワークショップ概要

北星山森林公園の自然豊かな環境を守りつつ、適疎な空間づくりを考えるワークショップです。北星山森林公園の利活用について「地域住民目線」「観光目線」で話し合い、賑わいづくりの為に施設の機能・用途のコンテンツや運営を考え、北星山森林公園の「ありたい姿」について地域の方々と共に考えていきます。

## 第一部・3つの時間軸で公園について語る

第一部・昔の森林公園を振り返る  
「昔の公園にはゴーカートやアスレチックがあったよね」  
「子供の頃はよく公園で遊んでいた。大人になるにつれて、足が遠のいてしまった。結婚し、子供が生まれ親となった今、子供を連れて、また公園に時々行くようになってる。」



二〇二五年八月二十八日、北星山森林公園の自然豊かな環境を守りつつ、適疎な空間づくりを考える「つながる森づくりワークショップ」第一回目が開催されました。町の広報誌に掲載したチラシをきっかけに集まった参加者は、北星山森林公園の魅力を活かした賑わいづくりの検討に興味関心がある、日常的に北星山森林公園を活用し、今後の未来と一緒に考えていきたいなど、それぞれの思いを持って参加してくれました。

北星山森林公園はカラマツを中心に植林された人工林が広がる比較的歴史の若い山です。そのような山も次第に森林公園として整備され、一九八〇年代にはキャンプ場、バーベキュー会場、ゴーカート、アスレチックなどがあつたことから観光客で賑わい、公園内に設置されていた児童館ではお風呂も入れたり地元住民も日常の暮らしの中で、度々公園を訪れていたとのことでした。その後、施設の老朽化に伴い、賑わいを見せていた公園は維持管理を続けていく難しさから、取り壊しをされたり、朽ちたまま残されている建物がある現在の公園の姿になっていきます。

公園の歴史を知り、参加者からは「昔からずっと今の公園の姿だっと思ってたのでこの変化には驚いた。ここ六十年ほどの風景の変化を考えると、この先の五十年、百年とどんな姿の公園を残していきたいかを考えることが大事だと感じた。」賑わいを見せていた公園を知っている。その風景と今の公園を比べると、地元住民でも来る機会が減っていると感じている。少し寂しい。「といった意見も上がりました。過去を振り返りながら、現在の公園の状況を理解し、魅力や課題を整理しながら、未来の公園でどんな風景を作っていくかを考えるきっかけの第一部になりました。

第二部では、公園のマップを広げながら3つのグループに分かれて、ディスカッションを行いました。公園の過去を振り返り、この場所はこうだったよね。現在はこうだね。未来はこうだったらいいな。という3つの分類で意見を出し合います。

「昔」雪が降ると、町の子供達はスキートの練習をよくしていた。公園で滑れるようになってから、大きなスキー場へ繰り出す。

「現在」犬連れで来れないのが残念。例えば、エリアを限定するなどし、ドッグランを作つて、自由に遊ばせてあげたい。

「未来」観光客が増えるのは良いけど、観光ばかりが盛り上がりすぎると地元住民が寄り付かなくなる。その2つがうまく共存できる良い。

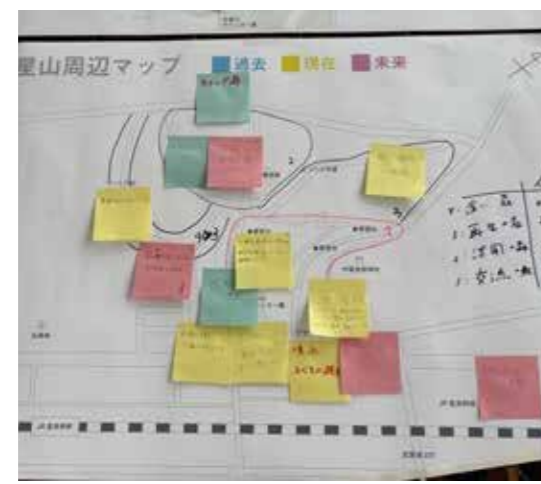
公園の中で楽しむ方、過ごし方を教えてくれるガイドがあるのもっと行きたくなる。そもそもどこまでが森林公園がエリアかわからないし、入り口も分かりづらい。観光客も地元住民もは知らないというペンダー園から先には来ない。行くための目的をもっと作る必要がある。



「誰かがいつでもいてくれる安心感がほしい。手入れされているだけでも、立ち寄ってみようと思えるきっかけになると思う。」

「音楽フェスやヨガのイベント、映画の上映会など、現在も時々イベント活用されている。もっと気軽に活用できる場所になったら、良い。」

「季節毎の動植物の情報が知れたら、公園の散策がもっと楽しくなるのでは？案内所を作つたり、看板を整備してほしい。」



第一回目のワークショップで出た、未来はこうなっていてほしい、作りたい風景、やってみよう。この意見をまとめ、十月上旬に予定されている第二回目のワークショップでは、公園に必要な機能やコンテンツの整理、またその配置計画の仮説について、さらにディスカッションを進める予定です。また、森づくりへの知見を深める為、外部講師で、ガーデンデザイナーの正木覚様をお迎えした、シンポジウムの開催も企画します。

主催：中富良野町  
企画・運営協力：株式会社良品計画

# 「北星山森林公園 つながる森づくりワークショップ」

Vol.2  
瓦版



第二回  
**10月2日** (木)  
開催場所：  
なかもーる 1F 健康ホール1・2

**先進事例・有識者から学ぶ対話型シンポジウム概要**  
「みどりと暮らす森づくり」 外部講師：ガーデンデザイナー 正木 覚様  
「公園・日常・観光・地域連携」などをテーマにした滞在・エリア価値向上を考え、本事業の方針に近い事例をピックアップし、全国の公園等におけるデザイン・エリアマネジメント、意識醸成等の実践者/有識者として登壇いただきます。



武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業後、三年間植木職の修行を積み、造園設計会社を経てエービーデザイン株式会社を設立。個人の庭や集合住宅をはじめ、住宅開発、商業空間など、こちよさを求めたデザインを实践。また、環境共生住宅やまちづくりプロジェクトにも積極的に取り組み、教育機関や企業研修などのセミナー講師としての活動も多行う。



先進事例・有識者から学ぶ対話型シンポジウム  
「みどりと暮らす森づくり」  
ガーデンデザイナー 正木 覚様

第二回目のワークショップでは、前半はシンポジウムという形で外部講師を招待し、先進事例についてご紹介いただきながら、北星山森林公園の現状の見立てについて、お話しいただきました。

ガーデンデザイナーの正木さんは自然や植物とおおしてのコミュニティ意識や街づくりのプロジェクトにて、全国様々な地域を訪れ、その土地土地で人と出会い、その場所ならではの土地の環境や人との関わりを見てこられました。その中から、お話いただいたのは、「自然の持つ力と影響について」と「人の暮らしと自然の関わり」。「ガーデンで街がつながり、広がるコミュニティ作り」についてです。自宅の庭作りから、徐々に街を巻き込んだ、フラワーロードの整備、最終的には更に大きなガーデンの都市計画にまで繋がった事例の話が、今後の活動における可能性を広く捉えることができると印象的でした。

シンポジウム当日の昼中、正木さんと北星山森林公園を歩いてきました。元々は人工的に植樹されたカラマツの単層林が、生い茂っている影響で光が入り込まないことから、下草が生えづらく、土壌としてはかなり硬い状態とのことでした。その中でも、意図的に他の広葉樹が植えられている場所や、下草としてクマザサが生い茂る場所、少しづつ植物の多様性が進んでいる場所も見受けられたそうです。多様性が進み、土壌が柔らかくなると、更に様々な動植物が増えていく公園になる可能性も秘めています。一方で、正木さんからは、この先、どんな風景を残していきたいかで、森の手の掛け方は変わってくるということも教えていただきました。私たちの暮らしの中でどのようにみどりと共存していくか、自然を通して得られる暮らしの恩恵もあれば、管理していく大変さもある中で、この先の北星山森林公園をどのような形で残していくべきなのかを考えさせられるシンポジウムでのお話でした。

「第一回目のワークショップから集約した現在の見立てと振り返り」  
第二部では、八月二十八日に実施した第一回目のワークショップで参加者からいただいた意見を踏まえて、まとめたゾーニングや公園に必要なコンテンツと配置計画の仮説についてお話しさせていただきました。

「ゾーニングについて」  
現在の公園の状況、立地条件、アクセスの仕方など、現地調査とワークショップ参加者の声を元に地元住民と来訪者がうまく共存するエリア分を考えています。



フラワーパークや北星山ラベンダー園が広がる山の麓側を来訪者が賑わい、集いながら、この場所ならではの風景を楽しめる場所として見立てています。一方で山頂付近の木々が生い茂っている場所は、現状も町民の方々の利用が目立ち、日常の中の憩いや健康を配慮した過ごし方、子供たちの遊び場や教育の場として活用されています。このように、公園のエリアを全体で大きく捉えて、二つのゾーニングで緩やかに分けることで、地元住民と来訪者どちらも公園をより快適に楽しめるようになるのではと考えています。この点についてはワークショップ参加者の方々も同意見の方がほとんどでした。

「森の定義」

次に、森を四層に分け、「交流の森」「活用の森」「再生の森」「深い森」と名付けて、自然豊かな森林公園の森を人と動植物の割合で捉えた時に、この公園をどのようにゾーニング分けができるか考えていきました。ここでは、生まれも育ちも中富良野町という参加者の意見や、ほぼ毎日子供達を森で遊ばせているという事業者の方、定期的に森を散歩していたり、イベントを行っているという方々の意見を参考に、図示しています。今後進めていく公園の中の配置計画を考えていく中で、今ある環境を活かし、このように森の自然と人の活動がうまく共存できる工夫として、森の定義付けを考えています。



「公園に必要なコンテンツ整理と配置計画」  
前回参加者の皆さんからいただいた意見を元に、課題や理想の過ごし方から考える公園に必要なコンテンツを整理してみました。メインゲートがどこかわからない。冬に案内できる場所が少ない。町民が憩えるスペースが欲しい。日常で使えるトイレやアクティビティのレンタルなどの設備が欲しい。これらを叶えるコンテンツとして「公園の

案内所(仮称「ビジターセンター」)の設置、民営のアクティビティーツーリングや天候に左右されないイベントの実施ができる「屋根付き広場」や、音楽フェスやドライビングシアター、冬サウナや演劇発表の活用ができる「フェス・イベント会場」、過去公園にあった、キャンプ場やバーベキュー会場を改めて整備していくなど、これから先の公園の未来を考えていく上で必要なコンテンツとして現状では見立てています。

地元住民と来訪者のエリアゾーニング、森の定義を加味した公園配置計画として、公園での過ごし方が、公園内のどの場所でも計画していくと良いのか、現時点のまとめを元に3つのグループに分かれてディスカッションを行いました。

「参加者からの意見・コメント」  
①ビジターセンターという名前は来訪者の為の場所のイメージ。町民の利用もあるなら、もう少し違う名前をつけたほうが良いのではないかと？  
②公園の案内所のような場所を作るのは賛成だが、森林公園の奥まった場所に作るより、比較的賑わいがある山の麓側に作るべきなのではないか？また、既に作る事が決まっているオーベルジュとの連携は考えたい。その場合は、オーベルジュの近くに案内所があったほうが良いのでは。  
③最初から完成系を目指して何かを作る必要はないと思う。未来の公園像を思い描きながら、少しずつトライアンドエラーで試せる場所にする方が、本質的にこの公園に必要なものが見えてくるのではないかと？その場合は最初必要最低限の設備の設置だけで良いと考えている。

様々な話し合いは白熱しましたが、シンポジウムからのワークショップ実施という流れだったため、ディスカッションの時間を多くは取れませんでした。次回のワークショップは十月三十日に予定しておりますが、今回の時間が足りなかった部分の議論を再度たっぷり時間をとって話し合い、参加者の皆さんとより一層深いディスカッションができるように考えていきたいと思います。

主催：中富良野町  
企画・運営協力：株式会社良品計画

# 「北星山森林公園 つながる森づくりワークショップ」

Vol.3  
瓦版

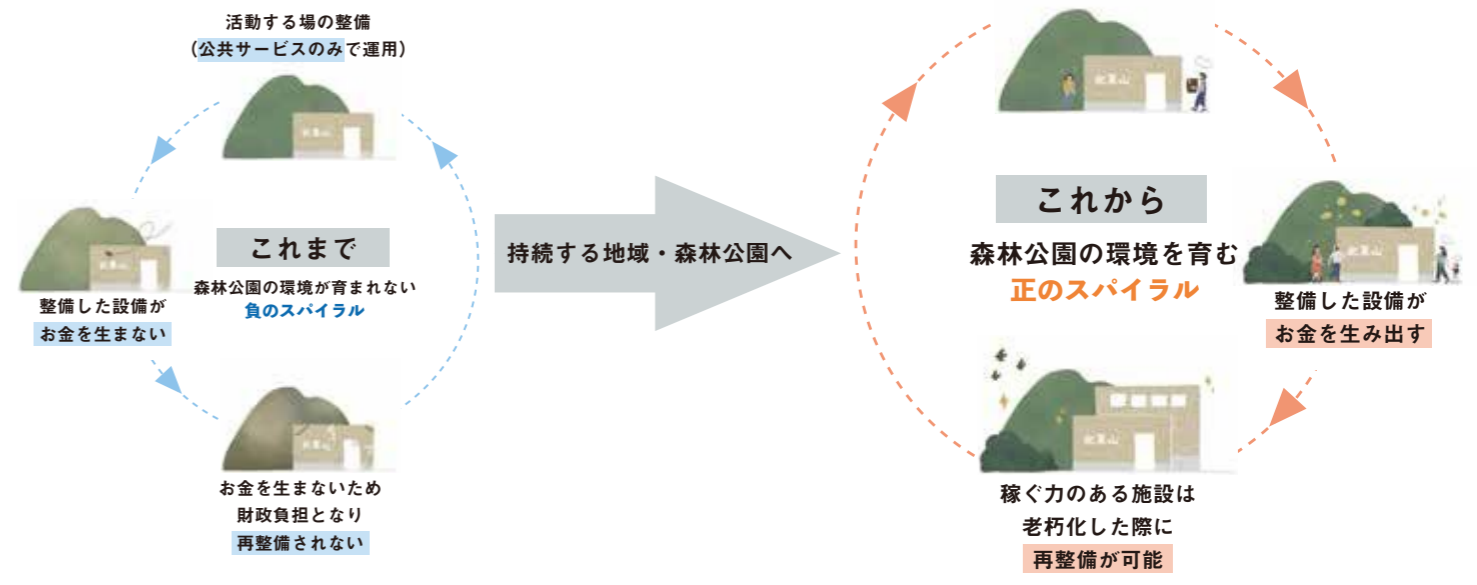


第三回  
**10月30日(木)**  
開催場所：  
なかまーる 1F 健康ホール1・2

## ワークショップ概要

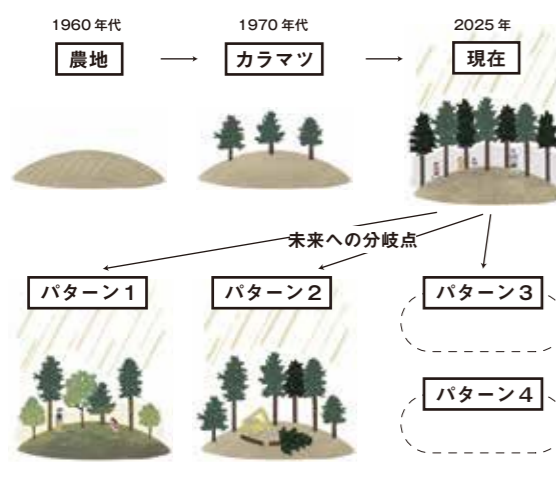
北星山森林公園の自然豊かな環境を守りつつ、適疎な空間づくり考えるワークショップです。北星山森林公園の利活用について「地域住民目線」「観光目線」で話し合い、賑わいづくりの為に施設の機能・用途のコンテンツや運営を考え、北星山森林公園の「ありたい姿」について地域の方々と共に考えていきます。

## 持続可能な公園づくりへの課題



## 北星山森林公園の未来の分岐点

森林公園の環境を成り立ちから追ってみると、元々は農地だった場所に、カラマツが人工的に植林され、成長し生い茂った状態が現在の森林公園の姿です。本来伐期を迎えたカラマツは、エネルギー資源として需要があったはずですが、伐採機会がない為、樹高が高く地面に光が当たらない環境から、下草や低木類が育つことなく、土壌が痩せている状態となっています。一方で下草類がないことで公園内の見通しは良く、レクリエーションなどで活用しやすい場所ではありますが、今後、森林公園の環境を維持しながら多様性のある場所として育てていくことを前提とする場合、パターン①…土壌を豊かにしていくための混植林見通しの良い環境と両立する場合、下草類を刈っていく手間や管理コストの捻出が課題。森林公園に再投資していく為の稼ぐ機能が求められます。パターン②…単一林を維持する。段階的に老木を伐採していき、単一林を植樹して維持。木材加工などを含めた町の産業にする必要があり、実現難易度は高い。その他、パターンは幾通りかあると思うのですが、今後の森林公園を考える上で管理運営まで考えた森づくりを改めて考えていく必要があります。



## これまでの振り返りを踏まえて



第一回目及び第二回目のワークショップを踏まえて、第三回目のディスカッションに入る前に、これまでの感想やご意見を伺いました。

- ①ワークショップを通して、過去の公園のことを知る機会となったのが良かった。遊具までではなくても良いが、かつてのように子供達が楽しめる場所にしてほしい。
- ②現在の公園は自然豊かで手を加えなくても良いと思っていたが、資源を維持管理していくには、稼ぐ必要性があることを理解できた。
- ③中富良野町に生まれ育ったこともあり、現在の公園は寂しい。この場所は町の財産。過去に賑わいのあった風景を、また取り戻せるのでは？
- ④ワークショップをきっかけに子供と森林公園を訪れた。二〜三時間は楽しめた為、改めて森林公園のポテンシャルに気づいた。
- ⑤ある程度公園内で観光客と地域住民の過ごすエリアのすみ分けがあった方が良くと思うが、ハッキリとは分けすぎず、両方が楽しめる場所にしてほしい。

## 第三回目ワークショップテーマ

北星山森林公園つなげる森づくりワークショップも今回で三回目となりました。参加者総勢十六名で一つのテーブルを囲みながら、ディスカッションを進めています。第一回は過去・現在・未来の三つの時間軸で、公園についてディスカッションを行い、第二回はシンポジウムを前半に開催、後半は第一回目のワークショップで出した意見を踏まえて必要なコンテンツと配置計画について整理をしていきました。第三回目では、これまでのワークショップで出た意見を振り返りながら、より具体的に優先度を考え、なぜ必要だと思ったか、どんな過ごし方ができたら良いか、それには何が必要か、またどんな人に来てもらいたいかな。などのテーマでこれまでよりも一層議論を深めていくディスカッションを実施。様々な意見が飛び交いました。

- 「参加者からのご意見・コメント」
- ①公園は子供がいるから一緒に行く場所。子供が起点のコンテンツ作りが必要。日常の遊び場は人工的である必要はないと思うが、季節や天候に左右されず過ごせる場所があると助かる。
- ②大袈裟な規模や設備は必要ないが、気軽に座れて話せて、珈琲などが飲める場所があると良い。用は無いけども、立ち寄れる場があることで、行ってみようと思うきっかけになる。
- ③自然を楽しむ為の補助線（森林公園に手を加える際の方針）を定め、散策路やビューポイントを作ってはどうか？そのポイントには腰がかけられるようなちょっとした椅子やベンチが用意されていると休憩もできて良いと思う。
- ④中富良野町出身の作家やアーティストと一緒に作品を作って森林公園の中を歩いてもらえるよう散策路に展示してはどうか？
- ⑤中富良野町だからこその見える景色や森林公園ならではの風景があるので、十勝岳連峰や知る人ぞ知るビュースポットを整理し、情報発信をしてはどうか？



▲紅葉深まる北星山森林公園

## 「愛着」が森林公園の価値を育む

中でも、参加者の皆さんが多く頷かれていた意見として、「愛着」というキーワードが出てきました。ここでいう愛着とは、継続的に森林公園について関わりを持ち、変化を感じることで得られる体験についてを意味しています。これまで、森林公園が皆さんの魅力を持ち得ている前提で語ってきましたが、第三回目のワークショップでは、森林公園の未来を考え、検討したり、そこで生まれたコミュニケーションや繋がりが自体が、価値として生まれ、森林公園の今後の景色を作っていくという考えが出てきました。現在は森林公園とのタッチポイントに、イベントなどがきっかけとなっている中で、どんなことが行われているのか、どんな体験ができるのか、より多くの方にもっと認知されたり、情報取得ができるような拠点があっても良いのでは？といった議論もありました。「北星山森林公園 つながる森づくりワークショップ」は、第三回目を持って一旦の節目を迎えますが、参加者の皆さんをはじめ、より多くの方に北星山森林公園に「愛着」を持っていただくよう取り組みは継続していきます。次のステップとしては、これまでに、計三回に渡って実施してきたワークショップで出た意見を参考に、今後の森林公園の未来を共通のイメージで思い描くビジョンイラストを作成していきます。そのイラストの下絵を持ち寄る経過報告会を十二月十一日に開催予定です。詳細はまた別途ご案内しますので、是非ご参加ください。